

何気なく住んできた四絡の昔を知る、郷土に愛着心を深め、ふるさとの歴史を次世代につなぐ「四絡の昔を知ろう」
矢野町 吾郷弘司さんに地質学の観点から四絡の歴史を紹介していただきます。

『四絡の昔を知ろう』(その5)

⑤町名の変遷と地名の由来

「四絡郷土誌」や「出雲市地名考」及び「出雲風土記」などの資料によると四絡地区の歴史は古く、町名の変遷を辿ってみると概ね下表のようになる。

八 野 の 郷	やののむら				矢野村	矢野村	四 纏 村	簸 川 郡	四 絡 村	出 雲 町	矢野	出 雲 市	矢野町
	小山村	小山村	小山村	小山村	小山	小山町							
		大塚村	大塚村	大塚村	大塚	大塚町							
	比奈原村				姫原	姫原町							
	渡橋村	渡橋村	渡橋村	渡橋村	渡橋	渡橋町							
奈良	平安	鎌倉	南北朝	室町	江戸	明 治		昭和			平成		

※ 現在、姫原町は区画整理により「姫原町」と「姫原」に分かれている。

○地名の由来

- ・四絡（よつがね） 明治22年の市制町村制により、元の矢野村、小山村、大塚村、渡橋村の四村が合併し四纏村が誕生した。四村が纏（まとい）にあやかって団結発展することを願って命名された。いわゆる合成地名の典型的なものといえる。
- ・八野郷（やぬのさと） 矢野ではなく、現在の「矢野町」「小山町」「白枝町」を含む広範囲の地を指したと考えられている。古代の出雲大川（今の斐伊川）と神門川（今の神戸川）の間に出来た自然堤防（八野と言う原野？）。
- ・矢野村 南北朝時代には「やののむら」と呼ばれていたが、江戸時代には「矢野村」となったが、矢野にある神社は八野神社であり、「八野若日女」がまつられている。
- ・渡橋村 地域一帯は神門水海の沿岸に位置しており、一面の沼地であったと考えられる。行き来する人は足元を保護するために板（今のすのこ板）を敷いて渡ったと言われていることから由来しているかもしれない。また、鎌倉時代から室町時代の館は周囲を壕で囲まれ、壕からは橋が見つかり、人々は橋を渡って館に向かったこととも関連があるかもしれない。
- ・小山村 地名「小山」のおこりは不明とされるが、この地区の氏神である「大山神社」と関連しているかも知れない。また、この地区は自然堤防（高台）の中にあることから、「こやま」と言われたのかも知れない。
- ・大塚村 大塚村地検帳に「寺の南に七間四方の古塚あり。これをもって村の号を大塚となす。」とある。この塚が古墳とは決め難く、尼子と大内の合戦の寄せ墓とも伝えられる。
- ・姫原町 昭和16年の出雲市制の際に大塚から分離して姫原町となったが歴史は古く、地誌によると南北朝時代には「比奈原村」が存在している。比奈神社の祭神である比奈鳥命に由来する比奈原が姫原に訛ったものと言われる。

◎おわりに

5回にわたって四絡の昔を取り上げましたが、多分に私の独断と偏見そして想像を交えたものでした。地域の皆様には、下記の文献をご覧くださいことをお奨めいたします。

参考文献 「四絡郷土誌」「出雲の国風土記」「出雲市地名考」「埋蔵文化財発掘調査報告書」